

いま一度、憲法25条を問い直す

「いのちの山河」上映の取り組み

霜野好克

入場者数950名。チケットの普及活動から予想はしていたが大成功であった。県境の西端糸魚川で7月に実施した映画「いのちの山河」の上映である。

これまでの「九条の会」といかわ「がかわ」であった講演会等の内容と入場者数は、以下のとおりである。

2005年5月、「九条の会」といかわ「結成のつどい。講演「戦後60年にあたり、戦争体験をとoshて願う平和」。講師はカトリック高田教会マリオ・T・カンドウチ神父さん。参加者120名。

2006年2月、講演「青海に残る戦争の記憶―英人捕虜の手記『希望の本質』を読み解く」。講師は渡辺セツ子さん。参加者100名。

2006年5月、講演「イラク戦争と日本」。講師は綿井健陽さん。映画「リトルバース」上映。参加者170名。

2007年6月、講演「ちひろの世界、今ほんとうのやさしさと平和をもとめて」。講師はいわさぎひろ美術館・東京副館長、松本由理子さん。参加者206名。

2008年6月、映画「日本の青空」上映。入場者180名。

今回の「いのちの山河」の上映が、2会場で午前午後、夜の3回で計6回であったとはいえ、950名の入場者数は今まで取り組んだ「つどい」をはるかに

しのぐ数である。成功の要因を以下4点にわたって述べたい。

1 「いのちの山河」のよさ、その意味するところ

「豪雪、貧困、多病」という、全国的にみても、とてつもなく大きな問題を抱えていた山あいの小さな村・沢内村（現・西和賀町、岩手県）が、全国に先駆けて老人医療費無料化を開始しました。〈生命尊重〉と呼ばれた当時の深澤村長は「人間を尊重すること」とは、人間の生命と健康を尊重することにはじまる」という信念をもって、生存権を規定した憲法25条の精神を盾に、この老人医療無料化のみならず乳児医療無料化にも踏み切り、全国初の乳児死亡率ゼロをも達成したのです。まさに憲法25条を生かし実践したドラマです。

今日の日本の状況は、沢内村の取り組みと逆行する後期高齢者医療問題をはじめ、格差社会、ワーキングプア、貧困、孤立、自殺、虐待、少子化……現代のさまざまな〈いのち〉の問題を考えると、いま一度、憲法25条の精神を生かし、問い直していく必要があるのではないか。一人ひとりのいのちを守ること、平

和を実現していくことは、まさに車の両輪なのではないだろうか。

「九条の会といがわ」としてもこの映画の製作に賛同し、2009年8月から一口1000円以上の製作協力カンパに取り組み、協力券の普及に奮闘してきました。11月までに100名近くの方々から賛同していただき、映画製作に一定の協力をすることができました。

2 製作委員会からの支援と発想の転換

これまで実施してきた各種の「つどい」では、チケット販売の目標を決め、その達成に向け点検・集約を繰り返してきました。ポスターはり、大量のチラシやチケットの作成……。会場確保や後援団体、広報紙やマスコミへの依頼。事務局の仕事も大変である。開催日が近づくにつれ実行委員会の雰囲気も重苦しくなっていたこともたびたびであった。これらの経験から実行委員会の有志で上映の企画計画段階で、製作委員会事務局の方と話し合う機会を持つことにしました。実行委員会作りから上映までの流れを次のように確認しました。

①実行委員会は15〜20名位とする。

②試写会を計画し、実行委員一人当たり10名をリストアップし招待する。

③試写会を100〜200人規模で実施し、参加者に一人10枚の前売り券を預かってもらう。

試写会を上映成功のキーポイントに位置付け、実行委員会の最大の仕事としました。

事務局であらかじめ「いのちの山河」をDVDで視聴し、映画のすばらしさを十分に把握していただきました。試写会を上映成功のキーポイントと位置付けることができました。

また、これまでの「つどい」は、1会場1回の開催であり、それも土曜か日曜の午後か夜に限っていました。地域や公的な行事はほとんどそうした開催であって、事務局も何の疑いもなく今までの固定概念、惰性で従来通りの開催をしてきました。製作委員会事務の方から、「今までの開催（夜）では、お年寄りはあるなということになるがそれでいいんですか」「多くの方から観てもらいたいのなら午前、午後、夜の一日3回の上映がベターじゃないですか」「週末開催は、か

えって集まりにくくないですか」等々……。チケットの普及方法などにも発想の転換が求められました。

3 試写会は大盛況、2会場で130名

6月11日（金）青海会場40名、6月12日（土）糸魚川会場90名の試写会で上映成功の第一関門をクリアしました。地域の老人会会長、区長、民生委員、公民館長、婦人会長、社会福祉の仕事にたずさわる方など多数の方から参加していただきました。

「目を潤ませながら映画に吸い込まれていきました。いのちと健康だけは格差をなくしたい。予防にこそ力を入れる。すばらしい映画だ」「みんなで力を合わせれば、なんでもできることを教えられました。すばらしい村長です」「映画を通して暖かい仲間や家族の支えがあつてあらゆる困難に立ち向かっていくんだと思いました。お年寄りと子どもにやさしい国が先進国だと思います」「久しぶりに涙が止まりませんでした。大変素晴らしい映画です。多くの方に紹介したいです」「世の中にはこんなえらい人がおられたのか。心から感動しました」「若い人に見ていただきたいです。今日の感想を伝えて多くの方から観てもらいたいです」

などの感想が寄せられました。終了後受付で、10枚入りのチケット封筒を快く受け取っていただくことができました。

当日、チケットに同封した「お願い状」は次の通りです。

お忙しい中、「いのちの山河」試写会にお出でいただきありがとうございます。私たちは、この映画をできるだけ多くの市民に観賞していただきたいと上映会を計画いたしました。市教育委員会、社会福祉協議会、各地区老人クラブ連合会、文化協会をはじめ各方面からのご後援、ご賛同をいただき感謝しております。

映画はいかがだったでしょうか。さまざまに感想をお持ちのことと思いますが、この映画の上映についてご賛同いただける方は、ぜひ、ご家族の方やご近所、ご友人の方々に観賞をお勧めいただきますようお願いいたします

参議院選挙や各地区の祇園祭などとなる中、チケット普及活動が着々とすすめられました。

「すばらしい映画だから、一人でも多くの方に観てもらう」「民生委員の方に勧めたら、10枚すぐになくなりました。もう10枚ください」「俳句の会の仲間が家族の分も買ってくれて、預かった10枚は売り切れました」など、プレイガイドや各地区の公民館への問い合わせ、申し込みも数多くなされました。試写会に出席されなかった20数名の方からも新たにチケットの普及に加わっていたきました。

4 チケット1150枚普及、950名の入場者

7月22日（木）午前10時～、午後2時～、6時30分～3回上映。糸魚川会場・ビーチホールまがたま。計562名の入場者。

7月23日（金）午前10時～、午後2時～、6時30分～3回上映。青海会場・きらら青海。計388名の入場者。合計950名の入場者を数え、大成功で終了することができました。

映画終了後、主催団体の「親子でよい映画を観る会」「映画『いのちの山河』を観る会」から次のようなお礼状をチケット普及活動に参加された150名の方々に差しあげました。

このたび私たちが計画した映画「いのちの山河」の上映にあたって、厚かましいお願いをお聞きくださって、ご多用中しかも厳しい暑さの中、チケットの普及にご協力いただき大変ありがとうございます。

お陰さまで、6回の上映で予想した以上のおよそ950名の方々から映画を観賞していただくことができました。「映画を観て久しぶりに涙が止まらなかった」「みんなで力を合わせればどんな困難でも克服できることを教えられた」「深澤村長をはじめ、村民のために自らの命を尽くしている人たちに感動した」などの感想をお聞きました。

私たちは、この映画の上映が、市民のみなさんに行政のあり方や地域の医療や福祉のあり方を考える材料を提供できたのではと思っております。あらためて皆さまのご理解とご協力に感謝申し上げます。

(しもの よしかつ・糸魚川市)

依然として重い教育費の保護者負担 日本高等学校教職員組合の調査

日本高等学校教職員組合（日高教）の「2010年度高校生の就学保障のために調査」によれば、この春から高校授業料の無償化が始まったが、依然として教育費の保護者負担は減少していません。

この調査は25都府県、2政令市、200校（全日制147校、定時制33校）からの報告をまとめたものです。

それによると初年度保護者の負担金の平均金額は全日制が19万2808円、定時制が9万8957円です。この金額は教科書代、PTA会費、修学旅行費などを含む金額です。またこれとは別に通学費、部活動費などが別途必要ですから、保護者の負担はさらに重くなっています。また今回の調査では、通学費の最高額が全日制で18万円、定時制で62万円を超える生徒がいました。

学区の拡大や学校統廃合が遠距離通学を増加させているようです。

(K)